

# 「コロナ」を超えていっそう元気に！

依然として続く「コロナ禍」の下での毎日ですが、千代田の会員の皆さん、お元気のことと存じます。吟友集っての思う存分の吟詠が出来ない辛さを感じ、しみじみ感じさせられています。とは言え、ワクチン接種が軌道に乗りつつあり、近い将来への希望も感じています。

「全国吟道大会」(六月二四日)に先立って「オンライン吟道大会」が本部主催で開催されており、札幌から沖縄までの吟友の素晴らしい吟詠に接することが出来るのは幸せなことです。

「コロナ禍」の一年半の中で私たちは色々なことを学んできています。

「千代田」をはじめとする本部、他の会・支部のホームページでの学習、Zoomでの相互研修等、幅広い研修の場が生き

てきています。これら全てが近い将来の本来の教場研修への繋がりでしょう。

もうしばらくです。お互いがんばりましょう！

**緊急事態宣言下でも楽しい教場**  
金町教場長 中内博風

「男はつらいよ」の寅さんで馴染みの葛飾柴又帝釈天近くにて金町教場を開き二年近くになります。金町駅近のUR集会所及び金町地区センターで草加教場と連携を取りながら毎月四回練習しています。練習場所は比較的スムーズに取ることができ三・四・五・六月はソーシャルディスタンスをとりながら対面方式で行っています。

会員は五十代、六十代と若くその女性。パワーに黒一点の教場長は時には六本で指導し頑張っています。会員の吟力がメキメキ上達していることは嬉しい限りです。

葛飾区の広報紙「区民の広場四月号」に「詩吟でストレス解消」の会員募集を掲載したところ、葛飾FMラジオが是非詩吟の話を聞きたいとのことインタビューを受けました。

詩吟はお腹から大きな声を出しストレス解消になりまた健康に良く、元気で長生き出来ること、ボケ防止など詩吟の効能を話し多めに宣伝しました。また十月には「金町地区センター祭り」があり、吟力向上と教室の宣伝も兼ね参加する予定です。昨年も

他教場の方にもご協力頂き参加したところ、このイベントを見学に来た人が入会しました。

早くコロナが終息し、岩崎先生をお迎えできる日が来るのを草加・金町会員一同楽しみにしています。

**コロナと共に**  
桜ヶ丘教場長 笠泰山

第一回の緊急事態宣言が出たのは昨年四月のこと。正月明けからの急激なコロナの蔓延に特別措置法が出来、急遽の宣言発令でした。

当時我々桜ヶ丘教場は四月一日に永山教場が独立スタートするとのこととでそのお披露目準備にまつ盛りでした。すべての段取りが没で会場のキャンセル、来賓のお断り等、バタバタが思い出されます。永山教場に所属された方には申し訳ありませんでしたが、何もなしのスタートになってしまいました。

あれから一年、ワクチンが普及するとはいえ終息はまだだいたい先のこととでしょう。第一回宣言の時の東京の新規感染者数は八七名。この四月二五日の第三回の宣言では七〇〇名強。約十倍の感染状況ですが慣れっこになつてしまつたなと思います。

現在桜ヶ丘教場では会場側の要請もあり、他教場の方お断り、桜ヶ丘会員限定の少人数で練習を行つています。コロナには十分留意して、皆で明るく元気に練習に励みたいと思います。



**教場の使命**  
熊谷教場長 小林明風

混沌としたこの世の中に怒りをどこにぶつけてよいのかと考えてしまふ今日この頃ですが、私達は漢詩や先人のお教えを吟ずることで救われていると思います。私達の教室でも昨年四月に全面延期の通達を受け、四月は休みましたが環境が大切と考へ、自宅で個別指導その他、大きな部屋を借りるなどの工夫を重ね三密回避を徹底して教室を続けてまいりました。

熊谷詩吟連盟も春の大会は各派の会長会議で衆議一決し、コロナ対策を万全にして四月十八日に実現いたしました。熊谷教室も十二名・剣舞五名(計十八名)参加で熊谷詩吟連盟に華を添えました。詩吟は「雨ニモ負ケズ」を合吟、剣舞は曾孫六才男女二名、曾祖母の私が吟を添え大変な話題になりました。その後会員もコロナ対策を万全にやれば継続できることを確信したと思います。コロナのワクチン接種が終わる頃には前の生活に戻り、不撓不屈の精神で体の底から元気が湧き立ち力強い詩吟が吟じられますよう頑張っていきたいと思

## 表参道教場の活動

副教場長 松岡 省泉

当教場は令和二年十一月にオープンし約半年間、徳本先生の暖かいご指導や開設後も尽力を頂いている青山学院の要職にあられる堀田宜山様と共に熱く吟じて参りました。現在の教場員数は十四名となり、その内十一名は詩吟の初体験者です。

現況は、休場の中メンバーは基本である「真善美」の暗記、「岳精会会詩」の吟練を中心に各々がやっています。新規の十一名は二十代から若い世代の方が多く、最近はあるの熱い雰囲気すら懐かしく思います。

やっと回を重ねる毎に皆吟じる声が大きくなってきていた矢先ですの後退に繋がらないように自身も含め自宅で外の空気を思いきり吸った後に窓を閉めて吟じます。しかし教場での思いきり腹の底から出す声と比べて何か足りないと感じるのは私だけでしょうか？また吟題もこういう中で明るく美しく心に響く詩を吟じたいとこの場をお借りし、今後共本部のご指導を宜しくお願い致します所存であります。

## コロナと教場

新宿ブロック長 坂下 光山

新宿にある明治安田生命ビルが建て直されることになり、新たに詩吟を勉強する場所を探し始めた矢先にコロナ禍が始まりました。当初は感

染防止のために教場は休みましたが、

たまたまコロナが下火になったことから駒込文化創造館で教場を再開しました。しかしここがコロナワクチン接種会場になるとのことで、またまた教場探しを始めましたがコロナの再度の蔓延拡大が進み、再び教場を閉鎖しました。ただ、今回は教場を休むばかりでは特に昇伝審査の勉強が疎かになるので第三教場の林實山氏の先導でズームによる指導が始まりました。ズームの指導が軌道に乗ったところでワクチン接種も始まり、六月中にはかなりの会員が二回目の接種を済ませられそうなので七月後半から対面教場を再開させるとともに、ズームによる教場も回数を減らして続けていくことにしています。

幸に千代田本部のズームによるご指導もあり、新宿ブロックからも少なからず参加しているようなので、今後も充実した詩吟の勉強が出来そうに楽しみをしています。

## みなとみらい教場の活動

教場長 田川 行山

みなとみらい教場は昨年六月に教場を再開し、昇伝審査も七月十八日に開催するなど比較的順調に運営してきましたが十二月から会場が使用不可となり、十二月二回目の教場をお休みとして本年一月よりズームでの開催を続けております。会員の皆様はズームでの開催にも積極的に参加され吟を楽しんでおります。

本年度はできる限り早く、安全に注意して対面での教場の活動を始め、みんなで顔を合わせて吟を楽しみたいと思つて居ります。また本年度の教場目標である会員数増強についても三年連続目標達成の記録を絶やさず、本年度の目標である二二名をみんなで力を合わせてぜひ達成したいと思つております。

## 東陽町支部教場の状況

副教場長 脇阪 緑山

当支部は昨年三月から新型コロナウイルスのため教場閉鎖となりました。四月二八日の岳精流宗家ズーム研修に支部から六名が参加した流れで六月には伊藤(彰)さんの提案でズームによる月三回の教場を定例化(希望者は金曜復習会にも参加)しています。

当初はパソコンのマイクやスピーカーの音量調整に苦戦しましたが、千代田ホームページの会長範吟による予習に注力し、回を重ねる中でズームの扱いに慣れていきました。

秋以降、荒木さんの提案で月一回「ズーム飲み会」を導入。年末には新陵教場有志との「合同温習会」「教場忘年会」で年末を締め括りました。

今年に入り吟礼、素読、解説は会員輪番制とし、発声練習や平居さんのストレッチ体操を定例化して、何時でもリアル教場に復帰できる体制を整え頑張っています。

また、この間女性会員は公共施設で教場開催を継続しています。

## 教場の現況

神田教場長 平井 武山

一昨年五月末、新宿に別れを告げこれからの教場は地域密着型であるべきとの信念から昨年八月より千葉の市川教育会館へ場を移し、一定の制約はあるものの順調に対面研修が行なえる幸運に恵まれ感謝しております。順調さの理由としては◎会場が「一般財団法人」であるため、公立と違ってコロナ禍の中でも会場側からの使用禁止はない◎会場の目的が教育に資することであるため単なる娯乐的なものには使用させず部屋に余裕がある◎そのため希望通りの日時が取れている(月三回、月曜日午後一時三〇分から)◎利用料も午後千六百円と比較的安価で会議室はがっちりした立派な部屋です。

また、この異常事態の中で対面研修が出来ない方々のために次善策としてズームを推進している関係者にお礼を申し上げます。大いに効果が出ているし、ある面では主善策の可能性も充分秘めていると思います。

